

※R8年4月1日より、荒代倉庫及びトイレは使用できません。

防災用トイレをご利用いただくことも可能です。

## 「海のひみつキーホルダー研修」実施要領

国立江田島青少年交流の家

### 1 内容

本所施設に隣接する荒代海岸で、海辺の漂着物の収集・分別、観察を行い、収集した漂着物を活用して、クラフト活動を行う。

### 2 ねらい

- ・漂着物の収集・分別を通して、海辺の環境を知る。
- ・3R（リデュース・リユース・リサイクル）について、自分なりの考えをもつ。

### 3 対象者

小学校第4学年以上。ただし、保護者又は引率指導者と組んで活動する場合は小学校第3学年以下でも実施可能。  
※ビーチコーミング時、幼児はライフジャケットを着用。

### 4 人数

クラフト室：最大40人、第8研修室：最大70人（他団体と活動が重複する場合は調整する）  
5～6人で班を構成し活動する。  
※20人以上で実施可。

### 5 体験活動費、実施場所、実施時期、研修時間

	ビーチコーミング	ビーチキーホルダーづくり
(1) 体験活動費	1人あたり500円（材料費300円を含む） ※引率者や見学者からは徴収しない。ただし、キーホルダーをつくる場合は材料費をいただきます。 （「海のひみつキーホルダー研修」実施届に記載された人数によって、費用を算出する。）	
(2) 実施場所	荒代海岸 （交流の家より片道徒歩15～20分程度）	クラフト室（海洋研修館の下） 第8研修室 ※交流の家が指定した場所
(3) 実施時期	5～11月（干潮時潮位200cm以下の日。） ※雨天の場合はビーチキーホルダーのみ。	5～11月 ※雨天の場合は、ビーチキーホルダー研修に変更。
(4) 研修時間	午前：9：00～12：00 午後：13：00～16：00 干潮時刻の前後1時間を含む1.5時間	午前：9：00～12：00 午後：13：00～16：00 ビーチコーミング後1.5時間
	※ビーチコーミングとビーチクラフト両方で約3時間。	

### 6 実施の可否（ビーチコーミング）

#### (1) 判断時期

- ① 午前の部…8時40分 午後の部…12時40分  
（いずれも研修当日）
- ② 活動実施中…随時

#### (2) 実施の可否基準

以下の①～⑧の場合、活動を実施しない。

- ① 台風が接近している場合
- ② 強風注意報及び暴風警報が発表されている場合
- ③ 大雨注意報及び大雨警報が発表されている場合
- ④ 波浪注意報及び波浪警報が発表されている場合



防災用トイレ

- ⑤ 津波注意報及び津波警報が発表されている場合
- ⑥ 雷鳴がしている場合
- ⑦ 原則、熱中症暑さ指数（WBGT）31℃または気温 35℃以上の場合
- ⑧ その他、特に活動に不適切と判断した場合

(3) 実施の可否の連絡方法

① 6 (1) ①の場合

団体は事務室窓口にて交流の家職員（以下「職員」）から可否確認を行う。

② 6 (1) ②の場合

- ア 交流の家は指導を行う職員（以下「指導職員」）が活動を中止すると判断した場合、直ちに総括責任者に連絡する。
- イ 交流の家所長が活動を中止すると判断した場合は、直ちに職員が指導職員を通じて総括責任者に連絡する。

※ビーチコーミングが実施不可の場合は室内で人工物・自然物についての学習をしたうえでビーチキーホルダーづくりを実施する。

## 7 準備物

	(1) 個人	(2) 引率者
ビーチコーミング	<p>～準備～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 観察に適した服装（長袖・長ズボン）</li> <li><input type="checkbox"/> 濡れてもよい靴（運動靴または長靴）</li> <li><input type="checkbox"/> 軍手 <input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> 帽子 <input type="checkbox"/> 飲み物</li> <li><input type="checkbox"/> ビニール袋 （キーホルダーづくりを使う漂着物を入れる用）</li> </ul> <p>～必要に応じて～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> バインダー <input type="checkbox"/> 筆記用具</li> </ul>	<p>～準備～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 観察に適した服装（長袖・長ズボン）</li> <li><input type="checkbox"/> 濡れてもよい靴（運動靴または長靴）</li> <li><input type="checkbox"/> 軍手 <input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> 帽子 <input type="checkbox"/> 飲み物</li> <li><input type="checkbox"/> 携帯電話 <input type="checkbox"/> ホイッスル</li> <li><input type="checkbox"/> 救急バック（貸出可）</li> </ul> <p>～必要に応じて～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> デジタルカメラ</li> <li><input type="checkbox"/> タブレット端末（調査用）</li> <li><input type="checkbox"/> 熱中症対策によるタブレット</li> </ul>
ビーチキーホルダーづくり	<p>～準備～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> 飲み物</li> <li><input type="checkbox"/> 漂着物（ビーチコーミングで収集）</li> </ul> <p>～必要に応じて～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 筆記用具</li> </ul>	<p>～準備～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> 飲み物 <input type="checkbox"/> 携帯電話</li> <li><input type="checkbox"/> その他、活動に必要と思われる物</li> <li><input type="checkbox"/> 救急バック（貸出可）</li> </ul>
(3) 交流の家		
ビーチコーミング	<p>～準備するもの～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 指導用資料 <input type="checkbox"/> 海辺の危険生物のシート <input type="checkbox"/> レスキューチューブ</li> <li><input type="checkbox"/> ブルーシート（荷物置き） <input type="checkbox"/> 分別用テープ <input type="checkbox"/> ブルーシートやコーンの重り（必要数）</li> </ul> <p>～活動時に使用するもの～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> バケツ <input type="checkbox"/> 分別用ジャンボバスケット <input type="checkbox"/> ハンドマイク（1）（必要な場合）</li> </ul> <p>～片付け時に使用する物～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 角型ジャンボタブ <input type="checkbox"/> ポリタンク（20L） ※軽く水洗いした後、海研前倉庫に収納する。</li> <li><input type="checkbox"/> シャワーホース ※海洋研修館の水道を使用。</li> </ul>	
ビーチキーホルダーづくり	<p>～活動時に使用する物～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> クラフト用具セット（必要数）</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> キーホルダー（3点セット） <input type="checkbox"/> UVライト</li> <li><input type="checkbox"/> 雑巾 <input type="checkbox"/> 手指アルコール <input type="checkbox"/> ごみ袋</li> <li><input type="checkbox"/> 分別容器（片づけ用）</li> </ul>	



バケツ



分別用  
ジャンボバスケット



角型  
ジャンボタブ



シャワー  
ホース



UVライト



キーホルダー  
（3点セット）

※貸出物品を紛失・破損した場合は実費負担の弁償となる。（状況による）

キーホルダー（3点セット）は10日前までに、実施届をメールにて提出する。

## 8 指導・安全管理

(1) 指導者・引率者の配置・人数・役割分担

研修時は、指導職員を一人配置する。

研修中は、「海のひみつキーホルダー研修」実施要領をもとに団体は、指導及び安全管理等を行う。

活動団体は次の役割を担う。（小規模の団体は担当を兼ねることができる）

- ① 総括責任者（全体の総括・指導）… 1人  
\* 実際の引率指導に当たっている団長（学校長、教頭、学年主任等）
  - ② 指導担当者（用具の準備・後始末の指示、人数確認、指導及び安全管理）… 1人以上
  - ③ 監視担当者（監視及び安全管理）… 1人以上（ビーチコーミング）  
\* 事故があった場合救助に向かう引率者
  - ④ 救護担当者（健康観察・応急処置・AED設置場所の確認）… 1人以上
- ※①と②は兼ねることができる。

### (3) 事故発生時の措置

（ビーチコーミング時）

- ① 総括責任者：事故の状況を把握し、交流の家に連絡をする。ただし、緊急時には、直接江田島消防署、江田島警察署、第六管区海上保安本部に連絡を入れ、その後交流の家に連絡をする。
- ② 指導担当者：全員を安全な場所に集合するよう指示し、人数、名前を確認する。
- ③ 監視担当者：事故をホイッスルで直ちに知らせ、事故現場付近に速やかに行き、レスキューチューブで救助する。
- ④ 救護担当：応急処置を行う。  
事故発生の連絡が交流の家にあった場合、所長は複数の職員を現場に派遣し、救助、応急処置に加わらせるとともに、搬送用の車を手配する。緊急時には、江田島消防署、江田島警察署、第六管区海上保安本部に連絡を入れる。（①ですすでに連絡済の場合、不要）

（ビーチキーホルダーづくり時）

- ① 総括責任者：事故の状況を把握し、交流の家に連絡をする。
- ② 指導担当者：事故現場付近に速やかに行き、事故対応する。
- ③ 救護担当：応急処置を行う。  
事故発生の連絡が交流の家にあった場合、所長は複数の職員を現場に派遣し、事故対応、応急処置に加わらせる。

## 9 展 開

(1) 「海のみみつキーホルダー研修実施届」及び「宿泊者名簿（または名簿）」（以下「実施届等」）の提出。  
団体は、実施届（及び物品利用希望書）に必要事項を記入し、総括責任者が10日前までに交流の家に提出する。

(2) 研修打ち合わせ（入所時に企画指導専門職が団体引率者と実施）

- ① 団体から提出された「海のみみつキーホルダー研修実施届」「宿泊者名簿（または名簿）」「物品利用希望書」の変更の有無を聴取し、変更がある場合は修正する。また、貸出希望物品について確認する。企画指導専門職は名簿を2部コピーし、1部は企画指導専門職が保持し、もう1部は打合せ担当者を通じて指導担当者に渡す。（原本は交流の家事務室用）
- ② 「海のみみつキーホルダー研修実施要領」をもとに研修の実施方法、安全管理等を説明する。

(2) 交流の家出発

（指導担当者）

- ① 交流の家（事務室）から必要に応じて、救急バッグ（1）、ハンドマイク（任意）を受け取る。
- ② かんぼラジオ体操広場又は、海洋研修館前に（雨天時はピロティ）に班毎（5～6人）に整列させる。
- ③ 救護担当者に健康観察を行わせる。
- ④ 参加者、見学者、引率者の人数、名前を確認する。
- ⑤ 交流の家職員に出発及び活動終了時刻を報告し、班毎に2列縦隊で荒代海岸に引率する。

荒代海岸に到着

- ① 浜辺に班毎に整列させる。
- ② 救護担当者に健康観察をさせる。
- ③ 参加者、見学者、引率者の人数、名前を確認する。  
※指導職員は名簿に変更点を記入する。

(3) ビーチコーミング事前指導

（指導職員）

- ① 目的及び活動の留意点を説明する。
- ② 漂着物（自然物、人工物等）について説明する。
- ③ 注意事項の説明をする。

水辺活動は特に危険を伴い、事故は死につながります。次の注意事項を確実に遵守してください。



- ・班員とともに行動し、悪ふざけや勝手な行動は絶対しない。
- ・体調が悪くなったら、早めに活動をやめ、指導者に連絡をする。
- ・体調不良者はビーチコーミングをしない。※見学をする、休む等しておく。
- ・見学者は勝手な行動をしない。
- ・事故を目撃したら直ちに引率者に知らせる。
- ・水の中には入らない。
- ・岩場には付着した貝が多くケガをしやすいので十分注意をする。
- ・危険生物を見つけたら、さわらないで引率者を呼ぶ。
- ・はだしになって活動をしない。
- ・トイレに行く場合は必ず指導者に伝えてから行く。

- ⑦ 収集時間の設定及び活動範囲、収集に適した場所について説明する。
- ⑧ 海辺の危険生物のシートを班に配布する。
- ⑨ 海辺の危険生物シートをもとに危険生物について説明する。  
危険生物を見つけた場合にはすぐに、引率者に伝えるよう指導する。

#### (4) 活動の実際

(指導職員)

- ① 研修者に軍手を装着させ、班毎にバケツを配付し、活動を始めさせる。
- ② 監視担当者に監視をさせる。

#### (5) 活動後

(指導担当者)

- ① 集合させる。
  - ア 班毎に整列させる。
  - イ 実施届等で参加者の人数、名前の確認をする。
  - ウ 救護担当者に健康観察をさせる。
  - エ イウの状況を総括責任者に報告する。
- ② クラフトで使用したい漂着物(自然物・人工物)を自分の袋の中に入れ、そのほかのものは分別してそれぞれの袋に入れる。
- ③ 借用物品を回収・数量を確認し、指定の場所に置く。
- ④ トイレを片付ける。
- ⑤ ポリバケツで、研修者の手を洗う。
- ⑥ 持参物を確認し、持参した物品は必ず持ち帰らせる。



#### (6) 荒代海岸から交流の家へ出発

(指導担当者)

- ① 班毎に整列させる。
- ② 救護担当者に健康観察をさせる。
- ③ 参加者、見学者、引率者の人数、名前を確認する。
- ④ 2列縦隊で青少年交流の家に引率する。

#### (7) 交流の家到着

(指導担当者)

- ① 参加者、見学者、引率者の人数、名前を確認する。
- ② 救護担当者に健康観察をさせる。
- ③ クラフト室または指定された研修室に移動させる。
- ④ クラフト室で班毎(5~6人)に机につく。

#### (8) 活動の実際

(指導職員)

- ① 目的及び活動の留意点を説明する。
- ② 漂着物にどんな物があったか確認する。(環境問題等に触れながら説明する。)
- ③ 使用物品を貸し出す。(クラフト用具セット(必要数)、キーホルダー(3点セット)、UVライト)
- ④ 作り方の説明を行う。
- ⑤ クラフト開始。

#### (10) 活動後

(指導担当者)

- ① クラフト室の掃除をする。
- ② 使用した物を元の場所に戻す。
- ③ 分別して容器に入れる。

作り方の動画



